

アベリスツイス高校生派遣事業 報告書

宮津天橋高校 加悦谷学舎 2年 村田亜美

1. アベリスツイス高校生派遣事業に対して

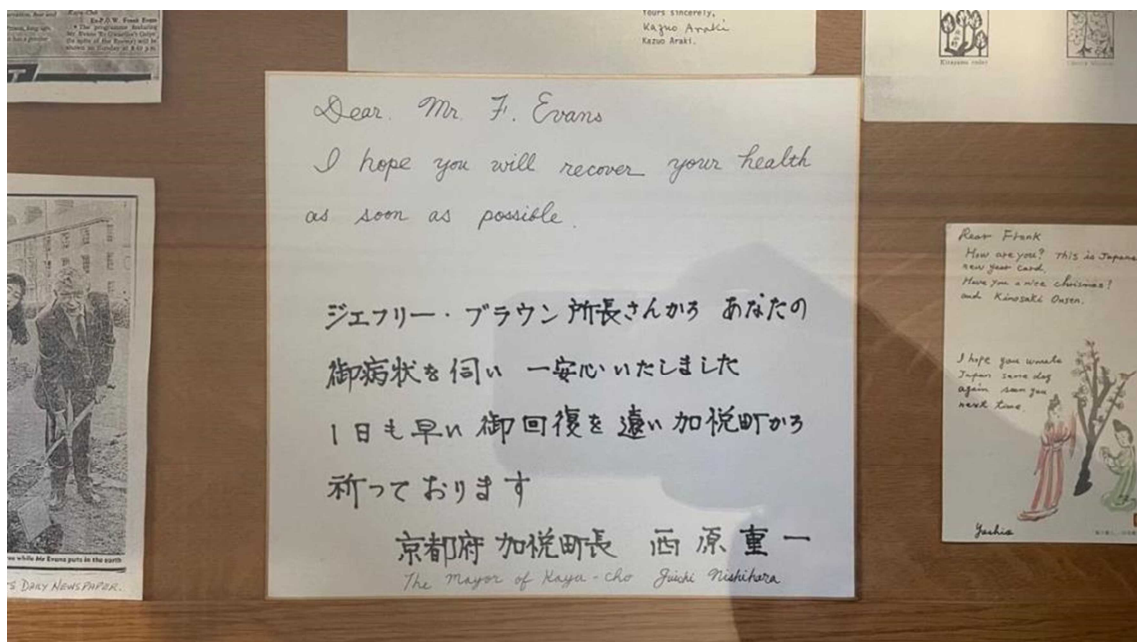
私は今回のアベリスツイス高校生派遣事業に参加し、本当に良い経験をしてきました。アベリスツイスに訪問するまでの事前研修会は、「戦争捕虜として日本に連れてこられたフランク・エバンスさんという1人の男性が旧加悦町にあった大江山ニッケル鉱山で労働され、終戦後旧加悦町を訪問し、『二度と戦争をしてはならない』との思いをお互いの国の若い人たちが交流し理解し合うことが大切だと考えられ、この事業が始まった」と学ぶことのできる良い事前研修会ばかりでした。実際に大江山運動公園に行き、慰霊碑を訪れたり、大江山ニッケル鉱山跡地に行きました。私はフランク・エバンスさんの戦争に対しての思いを私たちのような若者が引き継ぐために、今回の訪問でお互いの街のことをたくさん知ろうと思いました。そして、ホストファミリーや現地の方との交流を大切にすると決めました。会話をしたり、一緒にどこかに出かけたり、一緒にご飯を食べたりするのも大切な時間です。私は現地で想像以上に良い経験をしました。とても良い時間を過ごしてきました。この事業に参加をして本当に良かったと感じています。



2. 発見したこと・学んだこと

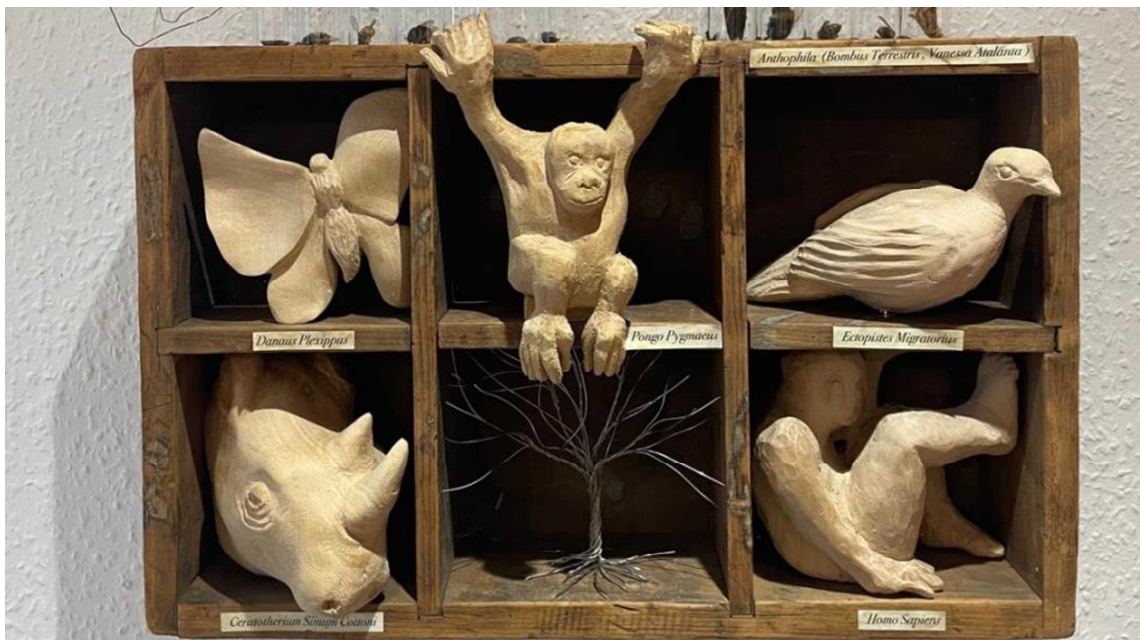
3日目

アベリスツイスに着いてからまず訪問したのは、アベリスツイス大学内にあるウェールズ国立図書館でした。ここでは旧加悦町とフランク・エバンスさんとの交流が分かる資料が展示されていました。展示品の中には当時の新聞記事や写真などがありました。互いの交流が目に見えてわかる大切な資料でした。



5日目

5日目にアベリスツイスから少し離れた街に行き、展示館、靴屋、昔の議会場、そして鉾山跡地に行きました。靴屋では全てハンドメイドの靴で、日本の着物柄を使用したブーツもありました。鉾山跡地では真っ暗な洞窟の中で、作業跡などが残っていました。





7日目

7日目の11月12日は戦没者追悼記念日で私たちは教会でのお祈りや、街の行進に参加しました。世界の平和や二度と起こしたくない戦争について深く考えることができました。国のために命を捧げた戦士の方達に敬意を表す、そんな一年の中で最も大切な日に参加することができ、とても良い経験になりました。その後、フランク・エバンスさんのお墓へ行き、私がアベリスツイスに来れたきっかけを作ってくださったことの感謝の思いを、お花と共に伝えてきました。



3. アベリスツイスに行って（まとめ）

私はアベリスツイスで今までにない良い経験をしました。緊張で何も話せない時もあったけれど、現地の方々の優しさに包まれて楽しい日々を過ごしました。日本にはない行事にも参加することができ、他国の戦争への意識は日本と同様で平和への想いが伝わってきました。フランク・エバンスさんは戦争で捕虜として与謝野町（旧加悦町）に来られ、今となつてはアベリスツイスと与謝野町を結んだ名誉ある方ですが、日本はフランク・エバンスさんを含む多くの方を捕虜として強制労働をさせました。日本が行ったことは決して許されることではありません。昔のように戦争で国の勝敗が決まるようなことが起こってほしくないです。私は先日、戦争を舞台とした恋愛映画を友達と見に行きました。この映画は戦時中の人々の生活や特攻隊員として出撃命令を待っている場面など戦時中の様子を映画として表現していました。空爆で家族を亡くした小さな少年や、町が空爆の被害に遭うシーンもあり衝撃的なものばかりでした。特攻隊員は国のために命を捧げる者だからと住民から神様と呼ばれているシーンがありました。自分は特攻隊員として国に命を捧げられることを誇らしいと言っているシーンもありました。私はこの考えが理解できないです。でもこの話が、昔、実際にあったと考えると想像ができません。国の勝利のために多くの方が亡くなったと思うと胸が苦しいです。もう二度と戦争で多くの方の命が失われるようなことを絶対に起こしてはいけません。私たちは戦争を体験したことがないですが、この映画で戦争を疑似体験できました。今、他国では戦争になっている国があります。多くの方が亡くなられています。戦争に損得などありません。戦争について改めて考えることができた戦没者追悼記念日でした。また私にとっては初めてのホストファミリーでした。今まで外国の人と長く過ごすことを経験したことがなかったです。アベリスツイスに着いたのは夜の7時ごろでしたが着いてすぐにホストファミリーとの顔合わせでした。初めて私のホストファミリーと話した時は緊張でうまく喋ることができなかつたです。でも、ホストファミリーは明るくて、優しくてよく喋りかけてくれて、私は人と話すことが大好きなのですぐに話すことができました。私のホストファミリーは2家族で、どちらの家族も日本に興味津々でした。日本が好きだから日本に行きたいと話してくれた時は本当に嬉しかったです。アベリスツイスの多くの人々が与謝野町から私たちが来ていることを知っているようで、コインランドリーに行った際に「与謝野町から来られたんだね」と声をかけてもらいました。またバスで移動中に日本の国旗をあげておられるお家を目にしました。この交流事業がアベリスツイスの多くの人たちに知ってもらえていることを実感しました。2024年はアベリスツイスの学生が与謝野町に来られる年です。私はホストファミリーとして学生の受け入れを考えています。今度は私が与謝野町の魅力を伝えたいと思います。私のホストファミリーも来年日本に行きたいと言ってくれました。私はアベリスツイスで沢山の発見をしました。今度はこちらに来る学生に与謝野町の魅力を発見してもらいたいです。このアベリスツイス高校生派遣事業は新たな人との繋がりができます。この良い交流を次世代に知ってもらいたいです。

4. 思い出

最後に私のホストファミリーとの思い出を紹介します！

1人目はジョナです。ジョナは一歳下の男の子で、少しシャイな子でした。



ジョナは滞在期間、一番長く一緒に過ごしました。初めてジョナの家に行った日は、一緒にボードゲームをしたり、夜ご飯を食べたり、パンケーキを一緒に作りました。

またその翌日にはアベリスツイスを一望できる高い丘に連れて行ってくれました。アベリスツイスは気温が低いうえ、海岸沿いなのでとても強い風が吹いていて、薄い上着ではとても寒かったです。



休日はホストファミリーと1日行動する日で、ジョナの家族に世界遺産のハーレフ城や近くの海岸に連れて行ってくれました。夜にはタコスを作って食べました。とても充実した日々を過ごしました。



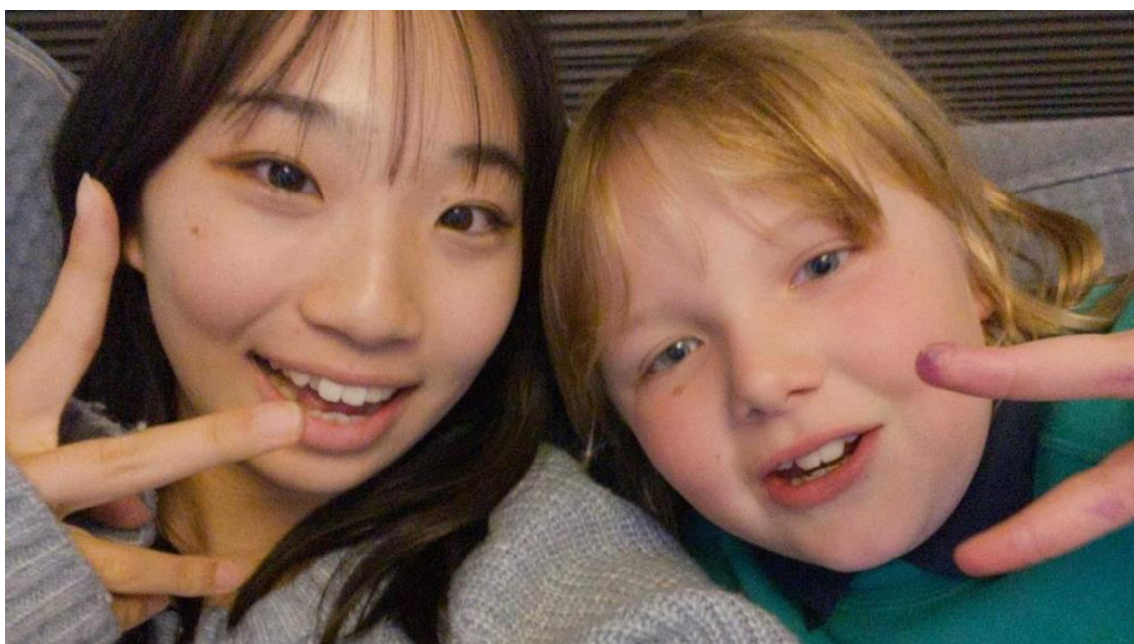




2人目はウィローです。ウィローは私と同じ歳で、明るくオシャレな子でとっても話しやすい子でした。



ウィローにはお兄ちゃんと妹がいて、妹のエリーはウィローよりも明るいまだ小学生くらいの女の子で、いつも私の名前を呼んで自分のことや学校のことをたくさん話してくれました。



ウィローとは家の近くの大きな滝を見に行ったり、フェア（移動式遊園地）に行ったり、アベリスツイスと一緒にいった子の誕生日パーティーに参加したりとたくさんの思い出を作ることができました。とても楽しかったです。







5. 感想

私はアベリスツイスが大好きになりました。正直に言うと日本に帰りたくないほどアベリスツイスに滞在したかったです。将来絶対にアベリスツイスに行きたいですし、アベリスツイスから来られる学生の受け入れをしたいです。私は今、外国語大学への進学を目指しています。大学で大好きな英語を学んで、将来、ホストファミリーに会ってたくさんお話をしたいです。この機会を大切に、今後の自分につなげたいと思います。アベリスツイスの人々は日本から来た私たちを優しく受け入れてくださって、とても嬉しかったです。そしてこのアベリスツイス高校生派遣事業に最初から最後までお世話になりました、随行員の廣谷さんと井戸本さんには本当に感謝の気持ちでいっぱいです。安全に、アベリスツイスでの滞在ができたのはお二人のおかげだと思っています。本当にありがとうございました。最後に、一緒にアベリスツイスに行った7人の私の大好きな友達！みんなとアベリスツイスに行けて嬉しかったです。知っている友達が多く、安心もしたし、初めて会った人とも今ではたくさん話す友達になれて嬉しいです。みんなのおかげで現地にいた時も緊張が和らいだし、1日1日が楽しい日々でした。みんなとアベリスツイスに行けたことは忘れられない思い出になったと思います。ありがとう！

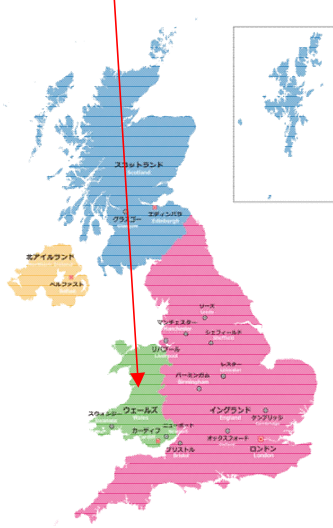
本当に良い体験をしたアベリスツイス高校生派遣事業でした。
ありがとうございました。

令和6年1月12日

アベリスツイス高校生派遣事業報告書

宮津天橋高等学校 宮津学舎 森下 彩咲

☆ アベリスツイスについて



- ◆ 場所 ウェールズの西側にあり海に面している
- ◆ 気候 日本より寒く、雨の日が多い
- ◆ 言語 ウェールズ語と英語
- ◆ 時差 - 9 時間



☆ 研修に参加した理由・研修の目標

私は外国に興味があり、外国での生活やコミュニケーションを体験したり、外国の文化に触れたりしてみたいと思っていたので、学校でこの交流事業の話を聞き、行ってみたいと思い、参加しました。

そのため、現地研修では、現地の人と積極的に交流すること、文化に触れ、日本との違いを知ることを目標としました。また、事前研修で学んだ、交流のきっかけとなったフランク・エバンス氏の思いや戦争、平和についても考えたいと思いました。

☆ ホストファミリーの紹介



弟 ジェイナ (14) マチルダ (16) 母 ジュリア 父 トム

私のホストファミリーはクロンプトン家の4人家族でした。みんなとても優しく、寒いだろうからと、マフラーと帽子、手袋をもらいました。また、日本語で予定を書いてくれました。マチルダは日本語や日本の文化に興味を持っていました。日本のことをたくさん聞いてくれたし、日本のことを話したり、日本の写真を見せたりするとすごく楽しそうにしてくれたのでとても嬉しかったです。マチルダは演劇部に入っていて、英語や演劇の授業が好きだと言っていました。お互いの好きなものや学校、授業について交流ができました。話す際には、翻訳機なども使って話していたので困ることはありませんでした。

◆11月7日

ロンドンのヒースロー空港に着き、ウェールズの首都であるカーディフに電車で向かいました。窓から見える景色の中には、羊がたくさんいました。

カーディフ城やカフェに行きましたが、そこでは日本との違いを感じました。



◆11月8日

国立図書館はとても大きく、本以外にも地図や新聞、絵画なども保管されていました。研究開発施設では、産業や経済の話など、ケルディギオンの現状ついでの話を聞きましたが、与謝野町と似たところがあると感じました。



フランク・エバンス氏に関する資料

(日本語が書かれた色紙や

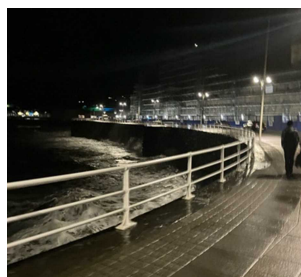
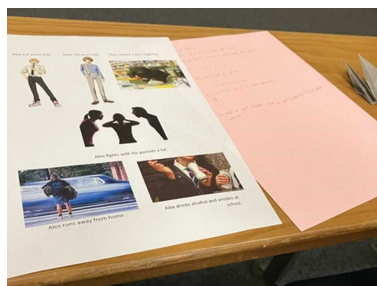
フランク・エバンス氏の捕虜体験を

自身で書いた本など)



◆11月9日

アベリスツイス大学に行き、模擬授業の体験や留学生との交流をしました。全て英語でしたが、普段は受けない授業の内容、普段は話すことのない人だったので、楽しみながら体験や交流ができました。



咲ちゃん、まほちゃん、そのホストチューデントと一緒にショッピングなどをし、レセプション会場に向かいました。レセプションでは、ウェールズの伝統的なダンスを踊りました。とても難しかったし疲れましたが、会場に来ていたたくさんの人と踊ることができたので、良い経験になりました。

◆11月10日

マハンスレスに行き、美術館や靴屋、鉱山に訪れました。その靴屋の靴は、全てハンドメイドで、作るときの場所や作業を実際に見ることができました。

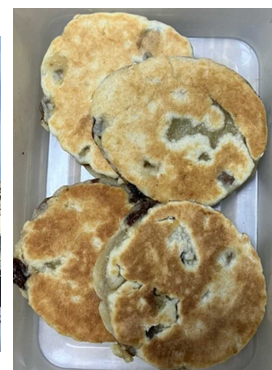
鉱山は、**現地の屋根材に使われていたスレート**を採っていたらしく、当時の状態がそのまま残っていました。



ホストファミリーの家に行き、カードゲームをして、家族みんなで夕食を食べました。たくさんのカードゲームをしましたが、やったことのないものが多く、丁寧に説明してくれたので、楽しく遊ぶことができました。

◆11月11日

土曜日はホストファミリーと一緒に1日中行動しました。午前中は、お土産を買うために街中を歩き回り、ショッピングをしました。午後からは、電車で家に向かい、ジブリを見たり、ウェールズの伝統的なスイーツであるウェルシュケーキを作って食べたりしました。夕食にはうどんを食べました。



◆11月12日

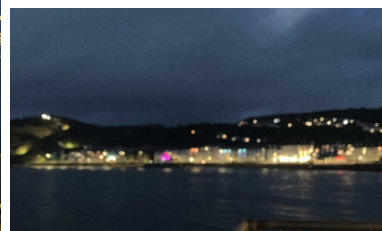
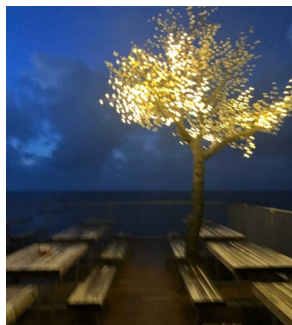
教会や終戦記念パレードに参加しましたが、戦地に咲いたというポピーを平和の象徴とし、街に飾ったり、アベリスツイスの戦死者の名前を呼んだりしていて、日本にはないことなので新鮮だったし、戦争や平和に対する思いが強いとわかりました。その後には、フランク・エバンス氏のお墓参りに行きました。



マチルダにはアベリスツイスを見渡すことのできる丘に連れて行ってもらいました。また、ゲームセンターで遊んだり、ピアガーデンに行ったりしました。



丘の上から撮った
アベリスツイスの写真



ピアガーデンとそこから見える景色

◆11月13日

ペングライス校では授業体験をしたり、伝統的な楽器であるハープを演奏したりしました。授業の内容は工作でしたが、スケッチをしたり、ダンボールで組み立てたりなど、今までにすることがあまりなかったので、こんなこともするのだとびっくりしました。マチルダとは移動式の遊園地に行き、一緒にいろいろなアトラクションに乗りました。日本よりも激しかったり、長かったりと、日本とは違う部分がたくさんありましたが、とても楽しかったです。



◆11月14日

国立ウール博物館では、羊の毛から1つの織物になるまでの話を聞いたり、フェルトを自分で作ったりしました。織物にする工程や機械を見ましたが、それらはちりめんに似ていると思いました。デニム工場には、たくさんの種類のデニムが置いてあり、それを作る工程も説明してもらいました。



マチルダと私は咲ちゃんの誕生日会に誘ってもらい、焚き火でマシュマロを焼いて食べたり、焚き火を囲んでゲームをしたりしました。ケーキも食べる前にウェールズ語と英語両方で歌を歌いましたが、日本と少し違う部分があると思いました。

◆11月15日

アベリスツイスを出発し、ロンドンへ向かいました。電車や地下鉄に乗り、ビッグ・ベンやバッキンガム宮殿を見に行きました。



☆ 研修を終えて

アベリスツイスには、日本の文化が広がっていて、すしやジブリを知っている人が多いということに驚きました。



現地のスーパーで
見た日本の食べ物
(米、梅干し、豆腐
味噌など)



また、研修を通して、ウェールズやアベリスツイスは、日本と異なる部分が多くあり、そして、とても魅力的な街だと思いました。アベリスツイスはカラフルでおしゃれな街並みはもちろんですが、人柄もとても素敵でした。アベリスツイスは、いつも笑顔で、とても優しい人たちでいっぱいでした。道に迷っていたら、案内してくれたし、気分が悪くなったら、水を買って来てくれるなど、心配してくれました。私が与謝野町から来たということを知っている人は、日本語で挨拶をしてくれたり、日本や与謝野町のことについて聞いてくれたりしました。ホストファミリーはもちろん、他の人達も、みんな優しく、笑顔でした。私は、笑顔で接してくれること、日本のことや自分のことを知ろうとしてくれることは、とても嬉しいことなのだと気づくことができました。現地のの人にとっては当たり前のことなのかもしれませんが、私はそれですごく助けられたので、とても感謝しています、そんなふうにふるまえるようになりたいと思いました。

また、この交流でできた新しい繋がりを、ずっと続けていきたいです。このような繋がりがから良い関係性は築かれ、平和へと続いていくのだと思います。そして、この交流が続くよう、与謝野町とアベリスツイスのことをたくさんの人に知ってもらいたいです。